

広報 

いいたて

令和元年9月号
No.667

9

また、明日ね！

いいたて村の道の駅までい館

特集

特集

Welcome to いいたて

ようこそ、いいたてへ



大いなる田舎
までいライフ
いいたて

www.vill.iitate.fukushima.jp

Welcome to Iitate!

ウェルカム

ようこそ、いいたてへ

2019夏

この夏
村のあちこちで
育まれた笑顔の交流。
その一端を
ご紹介しましょう。

全国まちづくり交流会

地域おこしの名人たちをおもてなし

8月2日からの3日間、地域づくりに取り組む全国の有志が交流する「全国まちづくり交流会」が、飯館村で開催されました。交流会は17回目の開催で、実行委員会は開催地の持ち回り。今回は、行政区長会長の大越憲一さん（深谷）が委員長を務め、村が事務局を担いました。

約90人の参加者は、村の施設や農家を訪れたり、菅野村長の講演を聴いたりして、新しい村づくりの様子に触れました。交流センターのホールで行われた大交流会では、会場に駆けつけた大越委員長の仲間達が、参加者の代表に甲冑を着せ、ホラ貝を吹いて野馬追の出陣を再現し、会場を大いに盛り上げました。



2日目の夕食は、「飯館村食を考える会（菅野一代会長／比叢）」が手料理でおもてなし。夏野菜をふんだんに使った揚げびたしや、みそじゃが、冷や汁、山菜おこわ、桃のデザートなど、体にやさしくおいしい料理は大好評。参加者が、会の皆さんに「おいしかったよ、ありがとう」「また来るね」と声をかけている姿が印象的でした。



飯館村商工会青年部が製作したオリジナルTシャツ(各2,500円)。サイズはSS・S・M・L・LLの5種類で、着心地のよい綿生地のTシャツです。Tシャツの売り上げは、イベントの開催、出展や、飯館村の新しい村づくりに役立てられます。



飯館村商工会
飯館村草野字大師堂81
☎0244-26-7957

※申し込みは随時受け付けていますが、在庫がない場合は予約となり商品引き渡しが大変遅れる場合があります。
※郵送(着払い)で、商品を受け取ることもできます。

「LUSH GREENERY IATE」とは「青々と緑豊かな飯館」という意味。各色とも、好評発売中です。

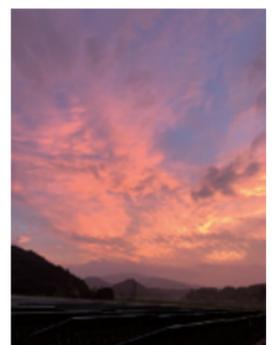
「いいたてプレミアム付商品券」を利用して購入することができます！



CONTENTS 目次

- 3 特集 Welcome to IITATE 2019夏
- 8 シリーズ復興対策課 予告編／vol.1商工業の再生
- 12 飯館百景 2周年の道の駅で
- 14 教育委員会NEWS! 義務教育学校開校に向けて ほか
- 16 教育のページ 沖縄までの旅
- 17 ほけんとふくし 長寿番付／敬老会へのお誘い
- 18 おしらせのページ 6次総計画策定が始まります
- 19 報告のページ 飯館村戦没者追悼式
- 20 いいたて便り
- 22 話題のパレット
- 23 そのころはっ ほか
- 24 おしらせのページ 8月のできごと ほか
- 25 入札結果
- 26 きてみて /ラオス通信。
- 27 こころのほけっと / ひとのうごき
- 28 ホープス / 編集後記

「いいたて村の道の駅までい館」は夕焼けがきれいなスポットの一つ。お盆を過ぎた頃から、空の色にも、日に日に秋の気配が感じられるようになってきました。



●表紙のおはなし●



加藤久美さん
和歌山大学観光学部教授。オオカミ天井絵の復元に力を尽くしました。

人と土地とのつながりを、今回はアートで表現していただきました。観光とは「光を観る」と書きます。この地域で再び産業をおこそうという人もまた、この地の光であると考えます。オオカミ絵の復元・奉納から3年、プロジェクトの集大成となった今回の活動が、次の道をつくってくれると感じています。

山津見神社のオオカミ天井絵の復元プロジェクトに大きく貢献した和歌山大学の加藤久美教授、消失前の旧天井絵の撮影者サイモン・ワーンさんらが、オーストラリアの現代舞踊家、パーカッションと共に来村。人々が自然と共に生きる音や風景をテーマに芸術表現を試み、村民と交流しました。また、それらの映像記録が、いわき市立美術館で上映された他、山津見神社では、詩人の和合亮一さんとの共演を村民に公開しました。

芸術表現 × 飯舘村

村人の営みを物語る
パフォーマンス



上は山津見神社での公開の様子。和合さんの詩の朗読とダンス、パーカッションの共演に、観客が引き込まれました。左は9月に開所予定の「やすらぎ工房」飯舘工場で、同工場の二瓶貴大さん(写真中央)を交えての打ち合わせ。二瓶さんは、工具を打ち付ける音で共演しました。



「ふくしま未来神楽」の一つ「狼」の詩は、山津見神社のオオカミ絵からインスピレーションを受けて創作したものです。ここで朗読できたことが、とてもうれしいです。この地で本気でやっつけようという大人達がいること、震災からの日々で感じたことを、ためらうことなく子ども達に伝えていきたいと思っています。



和合亮一さん
詩人であり高校教諭。多彩な活動で地域の復興にも貢献しています。

世界的な舞踊家のジャン・ペーカーフィンチさんと、パーカッションの各地をめぐり、即興の創作を生み出しました。濱田石材工業の工場、阿部勝男さん(佐須)のヒマワリ畑、山田猛史さん(関根・松塚)の放牧地などで、村民の協力を得ながらアートジャーニー(芸術表現を行いつつ旅)を展開。力を取り戻していく人々の営みと自然の風景に、芸術表現を重ねました。

東大むら塾 × 農業委員会

遊休農地で始めよう
交流の種まき



「東大むら塾」の学生(前列)と農業委員会の皆さん、活動を見学していた方も一緒に、記念撮影。後方の農地にそばの種をまきました。

「東大むら塾」は、東京大学のサークルです。地域おこしや農業体験に興味のある学生が集まり、千葉県富津市などで、農作物の生産やブランド化を行い、地域との協働に取り組んでいます。その活動範囲を広げたいと今年からスタートした飯舘村でのプロジェクト。学生達は「新たな村の魅力を見つけ、その魅力アップに貢献したい」「学生が本気で関わることで力になれるらうれしい」と、汗を光らせて話していました。この活動を、村の農業委員会がバックアップしています。1年目の今年は、菅野啓一会長の農地を活動拠点に、そばの栽培を行うことになりました。打ち合わせを重ねて迎えた当日は、電牧の設置や種まき、トラクターでの耕うんなどを、農業委員が手ほどき。学生達は、菅野会長宅に宿泊し、交流を深めながら、今後の活動について、アイデアを語り合いました。



菅野啓一さん
飯舘村農業委員会会長。比曾地区で、花き栽培を再開しています。

村では、これから農地をどうやって守っていくかが、一番の課題になっています。地域ごとに基盤整備などを行っています。地域ごとに管理として、遊休地をなくしていけるよう、農業委員会もがんばっています。「村に来てみたい」と思ってくれたこと、東大生の「本気」を大切にしたいですね。

「東大むら塾」には、さまざまな学部学生が集まっています。地域の将来について、地域のひとと一緒に活動しているサークルです。今回、飯舘村に来て、農地が生き返る様子を見ることができ、うれしいです。まだまだ知られていない村の魅力を見つけて、広めていきたいと思っています。



藤田太郎さん
「東大むら塾」の副代表。「いいたて村プロジェクト」のリーダーを務めます。

農業委員会からのお知らせ

農業委員会事務局 ☎0244-42-1629

農地を農地以外の目的(宅地、車庫、太陽光発電設備等)で使用する場合には、農地法に基づく「農地転用」の許可が必要です。地目が「田」「畑」以外に、「原野」などに農地転用する場合でも、現況が農地と判断されれば、農地転用の許可が必要になります。最近、相談件数が増えている太陽光発電設備を含め、農地転用を検討している場合は、事前に地元の農業委員会委員又は農業委員会事務局にご相談ください。

上智大学 × 飯舘中学校



震災後に始まった夏休みの交流。6回目となる今年は、9人の学生・院生が、1週間にわたり飯舘中学校の学習支援・部活動支援を行いました。大学側からは企画を持ち込まず、中学校などの希望に寄り添う形で交流しているそうです。上の写真は学習支援の様子です。交流の最終日には涙を浮かべて別れを惜しむ生徒もいました。「気軽に話せて仲良くなれた。本当にありがとう、それだけ伝えたいです」。



高橋一星さん
上智大学大学院の2年生。大学1年生から全6回交流に参加してきました。

毎夏村へ来て、一年ごとの変化を感じてきました。よい方向へ向かっている一方で、人口減少や風評などの課題もあり、そのままにしてはいけない、何とかしていきたいという思いが、自分にもあります。子ども達と再会すると「あー！星君だ」と声をかけてもらえて、うれしかったです。相手に受け入れてもらうためには、自分から心を開くことが大切なのだと思ふことができました。

絆甲子園の始球式に登場



大内良真投手(佐須) 安齋海人捕手
堂々と始球式を務めた福島商業高校バッテリー。「福島リトルシニア」の後輩達の試合も観戦し応援しました。

8月3日・4日に、「いいたて球場」で開かれた「第9回絆甲子園」。この大会は、東北の中学生達に、硬式野球を通じて仲間と出会い、経験を力にしてほしいと、震災後に始まった大会です。開会式には、「福島リトルシニア」の出身で、県立福島商業高校野球部で活躍するバッテリーが、始球式に登場しました。ピッチャーの大内良真さんは、飯舘中学校の卒業生。「新しい設備は加わりましたが、球場の雰囲気は変わらない」と懐かしいマウンドの感触を味わっていました。高校卒業後は進学して野球を続ける予定だそうです。

村の魅力を写真集に



移住相談室では、村の魅力を広く伝える写真集の制作を行っています。制作にあたって、昨年度から村主催のカメラツアーの講師を務めていただいている宮本さんに撮影を依頼。季節を追いながら、村の風景の撮影を進めています。



宮本章光さん
カメラマンとして写真研修の講師も多数務めています。

こちらに来るまで、飯舘村が「日本で最も美しい村」の一つであることさえ分からなかったのですが、写真を撮って見て、自然の「気」に圧倒されました。誰かに見せようとして手を入れたのではない「美しさ」や自然の「気」が写真を撮らせてくれるのです。私も自然に親しんで育ってきたのですが、それとは違う力を感じます。写真の本当の楽しさを、この風景の中で、もっと伝えていきたいですね。

この夏の出会いや交流をお伝えしました。掲載はその一部で、さらにたくさんの皆さんが、村を訪れ、村と関わり、力を与えてくださっています。感謝を力に、これからもたくさんの方に訪ねていただけるよう、魅力ある村づくりを進めていきましょう。Welcome to いいたて！

ただじゅんさん × 子ども達

飯舘は、前を向いて生きていくこととして、いつも感じます。こうして継続して子ども達と遊べるのが、とてもうれしいです。西日本豪雨の被災地にも行っていましたが、現地に行くと目で見ないと分からないことがあります。僕の視点でそれぞれを伝えながら、交流を続けていきたいと思っています。

ただじゅんさんは、震災後のボランティアを始まりに、その後は文化祭などで、村の子ども達に楽しい遊びを伝えてきました。この夏は、子育て支援センター「すくすく」と「まていの里のこども園」を訪問。子ども達が、身近なものでできるワクワクの遊びや工作を体験しました。

ただじゅんさん
舞台実演家。遊びの達人。



こども園での様子。園児と学童保育の児童が参加し多彩な遊びに目を輝かせていました。

新シリーズを
スタートします

連載

復興対策課の挑戦

震災後の取り組みを、連載で振り返るシリーズです。初回は、予告編に続いて10ページより「商工業の再生」についてお伝えします。

復興対策課の

これまでの取り組みをお伝えします

震災後に設置され、村の復興の最前線を担ってきた復興対策課。傷ついた環境を再生し、なりわいと暮らしを再生するため、さまざまな事業を積み重ねてきました。このシリーズでは、復興対策課の足跡を振り返り、これまでの取り組みを改めて報告します。



除染対策係(平成28年度まで)

国による除染が行なわれるにあたり、住民と懇談を重ね、除染工事の工程づくりに要望を続けました。その結果、「反転耕ではなく表土はぎ取りによる除染」「イグネの伐採」などが実現され、「屋内ごみの回収」「家屋解体」などの事業も引き出しました。

農政第二係

環境省との諸調整の他、除染後の農地の保全やモニタリング、仮置き場の返却、イグネの処分などを進めています。また、電気牧柵や堆肥の供給、サル・イノシシの駆除など、有害鳥獣の被害対策も行っています。

農政第一係

全村避難中も、農家の生産意欲と技術の維持に努め、避難指示解除後は「農地を守る」「生きがい農業」「なりわい農業」「新たな農業」と、個々のステップアップに応じて事業を展開しています。多くの力を結集し、村の農の再生を進めています。

商工労政係

全村避難の大打撃を受けた商工業者に対し、各事業所の継続、移転、補償や賠償の請求を支援。関係機関と連携し、村内での事業再開を、バックアップしてきました。課題を克服しながら、にぎわいづくりや観光資源の再生にも力を入れています。

事業所から 現場の声 商工会から



福相建設・福相農園
代表取締役
渡邊春治さん(小宮)

震災の時は崩れた道路の補修を終えてから避難しました。その後もずっと村の中で仕事をしています。道の駅には構想段階から関わり、雇用の場として作られた花き栽培ハウスでの事業にも取り組んでいます。これからは食べる物も作っていききたいし、新しい技術を使った栽培にも挑戦したい。若い世代が帰れる環境づくりが、さらに進むことを願っています。



飯館村商工会
経営指導員
茨木康志さん

商工会では、商工業者の補助金の申請や、実績報告などを支援しています。村内での再開に意欲的な事業所がある一方、小売業などは人口の回復を待つ傾向にあり、活性化には、若い世代の帰還がポイントになると考えています。商工会も、村のサポートを受けながら、いいたてプレミアム付商品券の発行やイベント開催など、会員と共にさまざまな事業を行っています。

全村避難からの取り組み(一部)



補助金の活用の補助
損害賠償申請の補助
課題への相談・対応

写真は村が計画的避難地域に指定された際の企業向け説明会。

全村避難の中での
特例による継続操業
線量管理などの
課題に対応



村内で事業を継続した事業所は、従業員の線量管理を行いました。

避難中、飯坂温泉に
「いやしの宿いいたて」を開設



宿泊のべ1万2,000人
日帰りのべ8万5,000人
が利用しました

いやしの宿の入口。送迎バスも運行しました。

避難先での仮設
事業所を整備

- 福島市松川町…3件
- 福島市飯野町…5件
- 川俣町…4件
- 二本松市…1件
- 伊達市…4件
- 相馬市…1件 計18事業所

写真は松川第一仮設の敷地内で営業した「琥珀」。



「きこり」の再開・観光資源の再生



大火山つつじの森

宿泊体験館きこり

特産品、販促活動
県内外イベントへの出展



県外にも出展を続けました。写真は「ふくしま大交流フェスタ2018」(東京都)。

全村避難により、旧産業振興課商工観光係は、商工労政係に再編されました。当初は事業所の移転や休業に伴う補助金の申請、賠償の請求などを支援。避難中、村内での継続操業事業所への対応も行いました。その後、避難が長期化する中で、村内外での事業再開に支援を続けました。避難指示解除の前後には、コンビニエンスストアや道の駅の開業もありました。商工会などと連携し、イベント開催にも取り組んでいます。また、大火山つつじの森、村民の森あいの沢の再整備も行っています。8月20日現在、83の事業所が、村内で営業しています。商工労政係は、いいたてプレミアム付商品券の発行など新たな企画にも挑戦しながら、商工業の再生を進めています。

連載

復興対策課の挑戦

Vol.1 商工業の再生

かつてない課題に向き合い、村の再生にまい進してきた8年半の軌跡を、復興対策課の取り組みにスポットをあて、シリーズで振り返ります。

村内の商工業の再開状況



主な事業の実績

●飲料水安全確保対策支援事業

井戸掘削・簡易水道接続補助金
平成27年度～平成30年度(井戸掘削:112件、簡水接続:29件) **9748万8,000円**
平成23年3月11日時点で、16行政区(長泥、蕨平、比曾、前田・八和木の4行政区以外)に住んでいて避難指示解除後、速やかに帰村を予定している世帯のうち、希望する世帯に井戸掘削又は簡易水道への接続を支援。

●飯館村事業再開等支援補助金

平成28年度～平成31年度(39件) **3202万5,000円**(8月末現在)
「福島県原子力被災事業者事業再開等支援補助金」の採択事業者で補助金交付決定額に補助残である自己負担分を加えた額の5%を支援。

飯舘 百景

2周年の道の駅で

「いいたて村の道の駅までい館」が2周年を迎え、8月11日に商工会主催の「いいたて夏祭り」、同12日に「までい館誕生祭」が開かれました。

両日とも、店内で、さまざまなサービスクラフが行われた他、屋外でも音楽やダンスの多彩なステージ、かき氷早食い大会などのイベントが目白押し。緑日コーナーや、キッチンカーの飲食

コーナーも、大勢の家族連れでにぎわいました。

また、職員を派遣し村を支援する埼玉県吉川市の中原恵人市長が、11日に「一日村長」を務めました。吉川市のイメージキャラクター「なまりん」も来場し、村の公式キャラクター「イイタネ

「ふるさと納税」の特典として「一日村長」を委任させていただきました。ありがとうございました。協力に感謝します。ありがとうございました。



中原市長

菅野村長

皆さんが心をこめてつくつて来た飯舘村は、日本各地の自治体が見習うべき村だと考えています。ますます仲良く交流していきましょうと思っています。

11日に行われた餅まきの様子。中原市長と商工会の代表が抽選券入りの餅をまきました。前列の子ども達には、やさしいパスで。



ちゃん」と交流しました。

県内外の手作り雑貨の作家が集まる「そらのまちマルシェ」は、クラフト市やステージイベントを開催。他にも近隣市町村のグルメな出店や、村産の切り花なども人気を集め、多くの協力から生まれたにぎわいが、道の駅を輝かせていました。



そらのまちマルシェ



なまりん

イイタネちゃん



県立福島東高校
ダンス部 FED



よさこいのステージ

課題3

小中学校合同の行事の際、児童・生徒の発達段階を考慮した内容にするなどの工夫が必要になる。

解消への考え方

- 1 現在も行っていますが、学年それぞれが、行事のねらいを確実に達成できるように、学年毎のねらいや目標を明確にしていきます。
- 2 行事中での活躍の場や機会を一部の学年に集中することなく、どの学年にも与えていきます。
- 3 場合によっては、行事を全体で行う場面と学年毎で行う場面に分ける二部制で行うことも検討します。

課題4

9年間を見通し、一貫性を持たせた体系的な教育活動を行うための計画の作成や準備などに多くの時間が必要になる。

解消への考え方

- 1 教職員間のコミュニケーションを図り、先生方が教育活動に取り組みやすい環境を整えていきます。
- 2 会議を精選し、事務分担の効率化を図りながら、子どもと向き合う時間を確保していきます。
- 3 余裕のある教育活動を実現するために、教職員の配置などについて、教育委員会が十分な支援を行っていきます。

これらの課題については、開校までの準備の中で先進校の取り組み等を参考にし、解決に向けて検討していきます。

新しいスクールバスを購入しました

国の被災地通学用バス等購入費補助事業により購入した村の新しいスクールバスが、このたび納車されました。

村では、学校に通学する児童・生徒数に合わせ、また維持経費を節減するため、近年スクールバスの小型化を進めています。今回は、これまでの42人乗りと56人乗りのバスを、10人乗りと14人乗りのワゴン車に更新しました。

この新しいスクールバスは2学期から運行しています。



義務教育学校の開校に向けて こんな課題も検討中です



義務教育学校の開校に向けて(3)

先月号では、義務教育学校のメリット等について説明しました。今月号では、義務教育学校になった時の課題と、課題解消への考え方の一例を説明します。

課題1

学校生活が9年間連続するため、児童・生徒の人間関係の固定化などに対する工夫が必要になる。

解消への考え方

- 1 9年間の学校生活の節目で、入学式や卒業式以外にも特色ある行事の導入を検討し、メリハリのある学校生活を実現しながら、子どもの自己肯定感を高めていきます。
- 2 9年間という長いスパンの中で子どもを見守り、一人ひとりの子どもの個性や実態に応じた指導を行い、子どもの目標意識を高めていきます。
- 3 小中学校合同の行事や異学年交流を日常化していくことで親密な人間関係作りを進め、上級生が下級生の世話を率先してできるようなリーダーシップを育成していきます。
- 4 地域密着型の学校の利点を生かし、学習場面での地域の人材活用や体験学習の充実を図るとともに、小学校での一部教科担任制や小中学校教員の相互乗り入れ授業の導入を検討して、学習の質を向上させ、子どもの学習に対する興味・関心をより一層高めていきます。

課題2

授業時間が異なる(小学校:45分、中学校:50分)ため、日課表やチャイムの鳴らし方の工夫が必要になる。

解消への考え方

- 1 小学校と中学校の授業時間が異なるため、一日の学校生活の中では、授業などの開始及び終了時刻にズレが生じてしまいます。そこで、日課表などの作成にあたっては、休み時間や教室間の移動時間などで調整を図り、共通で生活する時間(業間・昼食・昼休み・清掃)を揃えるなどの工夫を検討します。
- 2 チャイムについては、現在、1日に3回(朝の活動開始時、3時間目と5時間目の開始時)鳴らしていますが、義務教育学校に限らず、多くの学校で実施されているノーチャイム制(時間感覚を身に付けさせるためにあえてチャイムを使用しない)の導入も検討していきます。

長寿番付

※年齢基準日は平成31年4月1日 ※名簿は行政区順です

男性		年齢	女性			
氏名	行政区		氏名	行政区	氏名	行政区
		103歳	古川 トミ子	伊丹沢		
		102歳	嶋原 フカノ	長泥		
		101歳	大東 春子	伊丹沢	菅野 ツルノ	比曾
		100歳	佐藤 菊美	伊丹沢	小泉 チヨ	伊丹沢
佐藤 宗雄	小宮	99歳	高橋 嘉子	伊丹沢	菅野 カツイ	比曾
			長澤 マスイ	伊丹沢	市澤 ウメヨ	前田
		98歳	坂本 チヨ	草野	山田 マキヨ	伊丹沢
			桑名 幸美	草野	佐藤 ナミヨ	伊丹沢
			西川 ケサヨ	伊丹沢	阿部 キノ	伊丹沢
			愛澤 ハツノ	伊丹沢	荒 二三子	飯樋町
八巻 誠一郎	草野	97歳	佐藤 ユリ	伊丹沢	高橋 光子	長泥
伊藤 保	伊丹沢		花井 トヨ	伊丹沢	志賀 ヨシ子	蔵平
			藤井 シギ	上飯樋	馬場 保子	白石
		96歳	田村 マツヨ	比曾		
今野 義寛	前田・八和木		坂井 チヨ子	飯樋町	大澤 フジヨ	上飯樋
		95歳	大澤 フチノ	上飯樋	高橋 みつ	前田
大谷 春吉	小宮		池田 ハルヨ	伊丹沢	高橋 アキヨ	前田・八和木
星 節	八木沢・芦原	94歳	佐藤 オイシ	伊丹沢	菅野 フミ子	関根・松塚
今野 勇	上飯樋		庄司 ヒデ	伊丹沢	佐藤 ハルヨ	前田
			平栗 智恵子	伊丹沢	赤石澤 テイ子	二枚橋・須萱
			北原 清子	宮内		
佐藤 丑三	草野	93歳	横田 フミエ	草野	松林 サクヨ	大久保・外内
巻野 秋重	伊丹沢		齊藤 マツヨ	深谷	佐藤 ミサオ	上飯樋
坂本 登	小宮		小林 モモヨ	伊丹沢	五百川 ミツ子	蔵平
庄司 千代	小宮		佐藤 チヨノ	宮内	齋藤 スイ子	前田
齋藤 光一	八木沢・芦原		高橋 トヨ	前田・八和木	佐藤 フミヨ	二枚橋・須萱
中川 廣男	宮内					
大河内 竹藏	前田	92歳	横山 キクヨ	草野	小林 ハル子	小宮
小山 辰雄	草野		堀井 リン	草野	佐藤 ヨシノ	八木沢・芦原
村山 二郎	深谷		菅野 靖子	草野	佐藤 コウ	宮内
庄司 孝夫	関沢		齋藤 繁	深谷	嶋原 キン	飯樋町
高橋 政幸	八木沢・芦原		庄司 ヤイ子	伊丹沢	赤石澤 フサイ	大久保・外内
細川 一	上飯樋		高倉 アイ子	関沢	齋藤 トヨ	大久保・外内
菅野 良雄	比曾		大内 初子	関沢	星 ハナヨ	上飯樋
			伊東 シミイ	関沢	菅野 フチノ	長泥
			末永 花江	小宮		
			91歳	伏見 ナツヨ	草野	長谷川 トメノ
杉浦 一美	伊丹沢	小山 ましよ		草野	熊谷 テル子	飯樋町
菅野 昌基	宮内	坂本 ミヨ子		草野	佐野 トミエ	前田・八和木
北山 安信	飯樋町	目黒 晴子		深谷	西 トミユ	上飯樋
高橋 藤七	前田・八和木	向山 ハツヨ		深谷	佐藤 ツヤ	上飯樋
大谷 八郎	上飯樋	花井 ハルノ		伊丹沢	菅野 千代子	比曾
菅野 仲治	蔵平	高橋 キヨ子		伊丹沢	菅野 ウメノ	比曾
菅野 功	関根・松塚	山田 美恵子		伊丹沢	菅野 アサ	長泥
		花井 キクイ		伊丹沢	庄司 セツコ	長泥
		三瓶 ハツヨ		伊丹沢	杉上 キイ	蔵平
		高橋 キヨ子	小宮	杉上 タケ子	蔵平	
		早坂 照子	小宮	半沢 キクヨ	白石	
		菅野 カツイ	小宮	高野 タツノ	前田	
高橋 利延	関沢	90歳	松本 ミツノ	草野	高野 チヨ子	前田・八和木
志賀 正二	小宮		高橋 ヤヨイ	草野	星 志保	上飯樋
半澤 文男	八木沢・芦原		庄司 マシ	深谷	佐藤 昭子	上飯樋
田村 照清	上飯樋		高倉 カネ子	関沢	高橋 フヨノ	上飯樋
田村 進	比曾		菅野 サツキ	関沢	村上 テルヨ	上飯樋
佐藤 啓義	二枚橋・須萱		渡邊 きみ子	小宮	木幡 トキ子	比曾
高橋 精一	二枚橋・須萱		大内 テレイ	佐須	圓谷 キクノ	蔵平
佐藤 政一	二枚橋・須萱		菅野 テルヲ	佐須		

おじいさん、おばあさん、
9月8日(日)は敬老会ですよ！

飯館村の発展に貢献されたお年寄りの皆さんをお招きし、長寿を祝う敬老会を、9月8日に開催します。
今年、アトラクションとして、お笑いコンビ「母心」のステージを予定しています。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

飯館村敬老会

皆さまのご来場を心よりお待ちしております

- 日時…9月8日(日) 午前10時30分～
- 会場…飯館中学校体育館
- プログラム(一部)
 - ・祝い品贈呈
 - ・金婚夫婦表彰
 - ・お笑いコンビ「母心」ステージ
 - ・までのりの里のこども園 園児によるダンスステージ
- 健康福祉課福祉係(いちばん館) ☎0244-42-1633

小学生が学び行く 沖縄までの旅



首里城にて

沖縄の地で育む 平和への願いと友情

村の小学生が、親元を離れて、沖縄で、命と平和の尊さ、自然や文化の素晴らしさを体感する「沖縄までの旅」が、7月21日から24日まで、3泊4日の日程で行われました。

今年で10回目を迎えたまでの旅には、小学5・6年生32人が参加。平和祈念公園や、戦時中の避難壕のガマ(沖縄の方言で洞窟やくぼみのこと)を訪ね、沖縄戦の惨状について現地の方から説明を受けました。戦後74年の夏に、平和への祈りを強くした子ども達です。

地元の方との交流も、旅の楽しみの一つ。3日目には、読谷村の小学生とスポーツで交流し、その後は一緒にバーベキューをしてお腹いっぱい。じりじりと焼き付けるような日差しの下で、教科書やテレビだけでは分からない沖縄の空気、匂いを体験した子ども達でした。

この旅の様子は、10月末の村の文化祭で報告する予定になっています。ぜひお越しください。



美ら海水族館



平和祈念公園



国際通り

美ら海水族館、国際通りなどで、沖縄特有の自然、文化を学んだ子ども達です

移動中も振り返り！
文化祭の発表お楽しみに♪



ハイチーズならぬ
ハイシーサー！



天気にもまれた海水浴



飯舘村から平和を願う 令和元年度飯舘村戦没者追悼式

8月23日、交流センター「ふれ愛館」で、「戦没者追悼式」が行われ、参列者が、戦争で亡くなった方々の冥福を祈り、平和の継承を誓いました。追悼式は、3年に1度行われており、飯舘村遺族会（赤石澤備会長／上飯樋）や村の関係者らが出席し、戦没者の追悼を行っています。

式では、菅野村長が、「戦争によつて、多くの方が亡くなられたことは永久の悲しみです。戦後74年を過ぎてなお、世界では争いが絶えない。令和という新

い時代、戦争の記憶の風化が危ぶまれているが、戦争の悲惨さ、平和のありがたみを忘れずに、守っていききたい」とあいさつ。続いて参列者の代表が、献花を行いました。

式の後には、遺族会と「飯舘村英霊にこたえる会（佐藤長平会長／宮内）」が主催する「戦没者慰霊祭」も執り行われました。

参列者からは「戦争は二度と起こしてはいけない」「戦争を知らない世代にしっかりと語り継いでいかなくては」という声がかれました。

式に参列していた方に、戦争当時のお話をうかがいました。



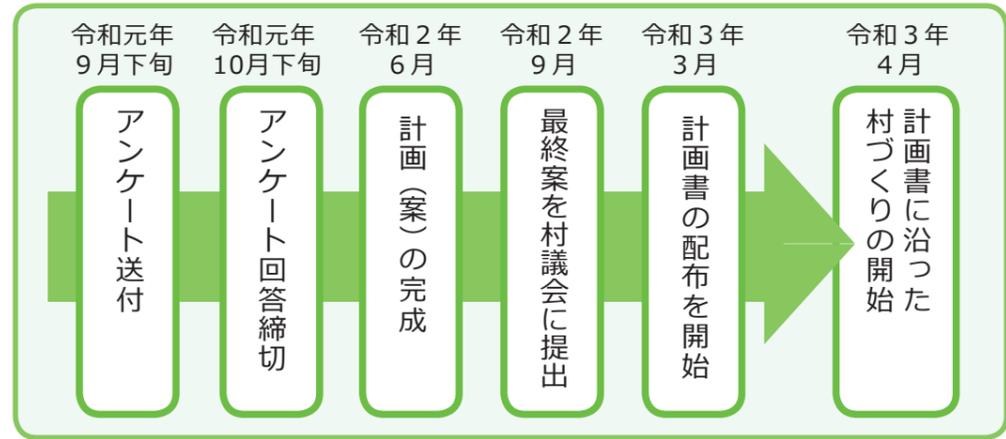
赤石澤フチノさん（上飯樋）

戦争当時は8才。家族も戦地に出兵していました。食べ物も少なくて大変でしたが、幸い農家だったので、自分達が食べる分くらいは確保できました。戦後のまづしい時も、隣近所と助け合って、分け合って何とか乗り越えてきたのです。

戦争を知らない、あの悲惨さを体験したことがない人には「おもしろい」「命の大切さ」を実感してほしいと思います。「助け合う」という気持ちも大切にしてほしいです。



▲これまでの飯舘村総合振興計画書です！



「第6次総合振興計画」の策定
 始まりです！
 村では、今後の村づくりのために、「飯舘村第6次総合振興計画（6次総）」の策定を開始します。令和3年度から令和7年度まで、5年分の村全体の計画です。

将来の村の方向性を決める、大切な計画ですので、皆さまの意見が必要です。順次、アンケートの送付や、地域別の話し合い等を実施いたします。積極的なご参加をお願いします。

6次総策定のイメージ

- ① アンケート、地域別の話し合い**
中学生以上を対象とした郵送によるアンケートと、村内を地域別（5地域程度）に分けて実施する話し合いにより、今後どのような村を作っていきたいか考えます。
- ② 策定委員会及び専門部会**
村民、有識者、役場職員などで構成する策定委員会及び分野別の専門部会で、6次総の内容を話し合います。専門部会は「厚生環境」「地域産業」「教育文化」「農村生活」の4部会の予定です。
- ③ 策定審議会**
村民、有識者、関係団体役員などで構成される組織です。①と②を基に作成した6次総の計画（案）を審議します。
- ④ 村議会**
③で審議された計画（案）を、村長が村議会に上程します。村議会の可決後、6次総に沿った村づくりが可能になります。

皆さまのご協力が必要です

総合振興計画には、村の発展や、より良い暮らしのためにセンター地区の整備（3次総）、までのライフの推進（5次総）など、様々な内容が盛り込まれます。

6次総においても、「急激な人口減少」「産業振興」「健康状態の改善」「義務教育学校との連携」「村の財政の今後」など、多くのことを決める予定です。

村役場だけでは今後の飯舘村をつくることはできませんので、村内各団体・組織・企業、そして村民の皆さまにも、6次総の策定と、計画の実行について、ご協力をお願いいたします。

センター地区は3次総で整備が計画されました



あぶくま信用金庫と 連携協定を結びました



同信金から寄贈された木彫のある交流センター「ふれ愛館」での締結式。太田理事長（右）と菅野村長

村は、8月1日、あぶくま信用金庫と「地域密着総合連携協定」を締結し、会見を行いました。会見では、同信金の太田福裕（よしひろ）理事長が「地域密着型の取り組みを行うと共に、ネットワークを生かして風評払拭、人口増加にも寄与したい」と述べ、菅野村長が「感謝と大きな期待を感じている。互いにプラスになる協定にしたい」と語りました。同信金は同日、村に居住する（予定を含む）人を対象とした優遇金利の住宅・教育ローンの取り扱いを、期間限定でスタートしています。

ますます元気に物産をPR！ 目黒リバーサイドフェスティバル

7月27・28日、東京都の目黒区民センターで開かれた「第56回目黒リバーサイドフェスティバル」に出展し、村の物産をPRしました。村は、このイベントに、平成22年から連続出展しています。

今年は、「美彩恋人（渡邊とみ子代表／前田・八和木）」「氣まぐれ茶屋ちえこ（佐々木千栄子代表／佐須）」「ニコニコ菅野農園（菅野クニ代表／宮内）」「ふるさと飯館なでしこ館（高橋トク子代表／深谷）」の魅力的な商品が並んだ他、村民手作りの雑貨も販売しました。



各地のブースが並ぶ「産直コーナー」で、商品の魅力と共に、前進する村の姿も発信しました

村で農業しませんか？ 「マイナビ就農フェスト」へ



ブースを訪問した人の希望に耳を傾けながら、新規就農者への支援策などを、ていねいに説明しました

8月4日、復興対策課農政第一係が、東京都で開かれた「マイナビ就農フェスト」に出展しました。村のブースには、8組の就農希望者が訪れ、村の担当者が、現在の営農の様子や、優れた技術を持つ農家が多数いること、村で就農する際の支援策などを、具体的に紹介。参加者からは、「話を聞いて花き栽培に興味を持った」「村内で農業研修をしてみたい」などの声が聞かれました。また、同31日の相双バスツアー（県主催）にも、フェストの参加者が加わって、実際に村を訪れました。

湖面に輝く花火700人が鑑賞 はやま湖花火大会

7月27日、はやま湖（真野ダム）の湖畔で開催された「はやま湖花火大会」。開会時には、暮れゆく光の中で、地元・大倉地区に伝わる「大倉の神楽」が上演され、オープニングを彩りました。この花火大会は、湖面に映る光の美しさと、谷間にこだまする打ち上げ音が、他にはない魅力です。スターミンや水中花火など、約1,000発の花火が描く幻想的な景色を、昨年を上回る約700人の観客が楽しみました。また、地区の皆さんによる手作りの屋台も人気を集めていました。



夜空と湖面を輝かせる美しい花火。ドンと響いてこだまする打ち上げ音も、この花火大会の名物です

「道の日」に合わせて 村内関連企業が道路美化活動



交流センターでの出発式。道の駅と二枚橋地区を起点に、2班に分かれてゴミ拾いを行いました

「道路ふれあい月間」の行事として、毎年8月10日の「道の日」に合わせて、各地で道路の美化活動が行われています。村では今年も、相双建設事務所と地元企業、村の関連部署などが協力し、県道原町川俣線で、9日に、美化活動を実施しました。当日は、約40人が活動に参加し、交流センターで出発式を行った後、2班に分かれて路上のゴミ拾いなどを行いました。暑さが厳しい中、お盆休みの帰省などで利用者が増加する道路を、手作業で、きれいにさせていただきました。

「AKARA」の迫力ステージ 和楽器ロックの魅力満喫

7月28日、交流センター自主文化事業として、和楽器ロックバンド「AKARA」のコンサートが開かれました。AKARAは、箏や篠笛などの和楽器を使うロックバンドで、ロックの激しさと日本の伝統音楽を融合させた独特のサウンドが、ヨーロッパなどで高い評価を受けています。また、休憩時間には、東京大学医学部のチームによる「薬膳料理」の体験教室も開かれ、村内外から集まったおよそ90人が、迫力ある音楽と、ちょっとした工夫のできる薬膳料理を楽しみました。



交流センター「ふれ愛館」のステージで演奏するAKARA。ホールいっぱいの聴衆を魅了しました

その
ところはっ
教えてください
そのワケを
#4



さまざまな種類の草花や
樹木が庭を彩ります。
左は小型犬「たけの」
下はヤギ「Cyan」



「馬ダイズクラブ」と書かれた馬小屋と、小さなヤギ：「気になるなあ」と訪ねたのが、佐藤さんのお宅でした。現在は二女の美絵さん家族と暮らす悦子さん。自宅を建て替えるのに合わせて、牛小屋を馬小屋にリフォームしました。

野馬追にも参加してきた美絵さんのご主人・弘典さんは、競走馬を生産する会社でシエフをしていて、いずれこの地で引退馬を飼う構想を持っているそうです。「今は原町に預けているけど、ヒロちゃん（弘典さん）の馬が2頭いるの。家の横の牧草地が運動場。ヤギは

ね、雑草を食べてもらおうと思って飼いだめたんだけど、グルメラしくて、ヨモギやクローバーしか食べないの。今ではすっかりペットです」。

長男家族と茨城県に避難し、孫と鳥取県に避難し、県内に戻って三女家族と暮らす悦子さん。「自宅族と一緒に暮らす悦子さん。自宅に戻れるとは思わなかった。波乱万丈だね」と笑います。草花がかわいらしい花を咲かせ、家族の手作りしたピザ窯が置かれた庭。さらには金魚や小鳥もいるにぎやかで心いやされる家。ヤギはメエエと悦子さんを呼んでいました。

佐藤 悦子 さん
小宮



身近な話題を
お寄せください
☎0244-42-1613



帰省していた家族連れや、地区の人など、多くの人が集まり、のど自慢やラオケ大会や盆踊りを楽しみ、地元を盛り上げました。

8月14日、今年4月に完成した新しい飯樋町集会所の前庭で、飯樋盆踊り実行委員会が、「飯樋盆踊り大会」を開きました。この盆踊りは震災後の復活から3回目で、新しい集会所前では、初めての開催です。



この日は、村内でボランティア等を行っていた外国の方も参加。盆踊りを初めて体験した人も！

奈々さんの友達らも参加者をおもてなし。近所の人から、移住相談室の「お試し住宅」利用者まで、交流の輪が広がりました。

夕暮れのそよ風を楽しみながら、トレーラーハウスの外でおしゃべりするの、いい感じ。

8月16日、深谷住宅のトレーラーハウスで、飯館村地域おこし協力隊の松本奈々さんが、「モチヨルバル」を開きました。飲み物やおつまみを持ち寄り集まった人達が、一緒に過ごすひとときを、和やかに楽しんでいました。



プレミアム付商品券を販売します

問 健康福祉課福祉係
☎ 0244-42-1633 (いちばん館)

所得の少ない方々や子育て世帯への消費税引き上げの影響を緩和し、地域の消費を支えるために、プレミアム付商品券を販売します。対象となる方には、案内の書類を送付していますので、内容のご確認をお願いします。

※商工会の「いいたてプレミアム付商品券」とは別の事業です。

●購入対象者 非課税者・子育て世帯
非課税者向けと子育て世帯向けの両方に該当する場合、それぞれ対象者分の商品券を購入できます。

●購入できる金額 対象者1人につき、2万5,000円分の商品券を、2万円で購入できます。商品券は、村の加盟店、または避難先自治体の加盟店でのみ使用できます。詳しくは、商品券購入引換券と同封予定の案内をご確認ください。

非課税者向け 平成31年度分の市・県民税（均等割）が課税されていない方が対象。ただし市民税が課税されている方と生計が同一の配偶者や被扶養者、生活保護受給者などは対象になりません。

必要な手続き 郵送された申請書に記入し、返信用封筒で郵送提出ください。該当者には、9月下旬以降に、商品券の購入引換券を送付します。

子育て世帯向け 令和元年9月30日現在で3歳未満の子どもがいる世帯の方が対象。

必要な手続き 申請手続きは必要ありません。9月下旬以降、随時、該当者に商品券の購入引換券を送付します。



小さな私が喜んだ飯樋町。荒商店にあるポンプの跡、水汲みに挑戦していた私を父母が探しに来て、私ははいやいやながらに帰った。昭和34年頃、村には人も牛もたくさんいて、私は、年上のお姉さん達に面倒をみてもらいながら育ったのだと思います。
(要約抜粋)

この夏、飯樋町出身で福島市在住の佐々木あけみさんから、「広報いいたて」にお便りいただきました。お便りには、佐々木さんが幼少期を過ごした飯樋町での思い出が綴られていました。ご紹介します。

入札結果をお知らせします

入札日／6月17日(単位：円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
農業水利施設等保全再生事業 ため池放射性汚染物質拡散防止対策工事(外内地区)	141,480,000円	(株)小野中村	令和2年 3月下旬

入札日／6月20日(単位：円)

プレミアム商品券管理システム構築業務	3,740,000円	(株)福島県中央計算センター	令和2年 3月下旬
村内放射線モニタリング事業業務	6,588,000円	特定非営利活動法人ふくしま再生の会	令和2年 3月下旬
戸籍電算機器賃借料	19,027,800円	富士ゼロックスシステムサービス(株)公共事業本部東北支店	令和2年 3月下旬
林道舗装工事 牧場線	23,814,000円	濱田建設工業(株)	令和元年 12月下旬
林道舗装工事 桝窪大倉線	31,017,600円	(株)東栄	令和元年 12月下旬
農業水利施設等保全再生事業 ため池放射性汚染物質拡散防止対策工事(中迫・中迫第2地区)	32,292,000円	(有)福相建設	令和2年 3月下旬
飯館村公営住宅等長寿命化計画策定業務	2,073,600円	(一財)ふくしま市町村支援機構	令和2年 3月下旬
県道改良工事に伴う支障物件移設工事(マンホール調整)設計業務	680,400円	福島県土地改良事業団体連合会	令和2年 1月下旬
県道原町川俣線函渠工事に伴う農業集落排水管布設替え設計業務	3,672,000円	福島県土地改良事業団体連合会	令和2年 1月下旬
県道改良工事に伴う支障物件移設工事(水道施設)設計業務	810,000円	(株)東亜コンサルタント	令和2年 1月下旬
県道原町川俣線函渠工事に伴う配水管布設替え設計業務	1,890,000円	(株)東亜コンサルタント	令和2年 1月下旬
地上デジタル放送再送信事業工事(第一期)	1,026,000円	(株)TTK	令和元年 9月下旬
飯館村「自分史」作成業務	6,215,000円	(株)SAGA DESIGN SEEDS	令和2年 1月下旬

入札日／7月5日(単位：円)

閉校記念誌作成業務	11,880,000円	(株)SAGA DESIGN SEEDS	令和2年 3月下旬
山林資源活用実証業務	29,150,000円	(公財)原子力安全研究協会	令和2年 3月下旬
大火山ツツジの森整備業務	2,268,000円	飯館村森林組合	令和2年 3月中旬
草野字向押地区測量業務	1,458,000円	(株)大和田測量設計	令和元年 7月下旬
県道改良工事に係る飯館村防犯カメラNO.2移設工事	4,698,000円	セコム(株)	令和元年 8月下旬
県道改良工事に係る街路灯撤去工事(13基分)	1,296,000円	(有)鹿山電気商会	令和元年 9月下旬
旧松川小応急仮設住宅他4ヵ所応急仮設住宅物置等解体業務	2,916,000円	(有)福相建設	令和元年 9月下旬
松川交流ひろば原形復旧業務	3,672,000円	(有)福相建設	令和元年 9月下旬
村道除草事業	1,296,000円	(有)福相建設	令和元年 9月下旬
飯館村簡易水道監視設備等整備工事	321,840,000円	荏原実業(株)東北営業所	令和2年 3月下旬
大師堂住宅団地敷地造成工事	104,220,000円	関場建設(株)	令和2年 3月下旬
営農再開支援水利施設等保全事業(飯館西部その1)農業用排水施設等補修工事(ため池補修)	27,324,000円	庄司建設工業(株)	令和2年 3月下旬
佐須大倉線法面補修工事	2,970,000円	ミドリ環境建設(株)	令和元年 11月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(飯樋字前田地内外)	10,044,000円	N T C コンサルタンツ(株)東北支社	令和2年 3月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(関根字中谷地内外)	3,996,000円	(有)武藤測量事務所	令和元年 12月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(前田字福田地内外)	9,018,000円	(株)船橋コンサルタント	令和元年 12月下旬
農業基盤整備促進事業(飯館西部その2)測量設計業務(二枚橋字町地内外)	37,908,000円	(有)武藤測量事務所	令和2年 3月下旬



10月18日(金)
までにご応募を!

屋内運動施設の名称を大募集!

来年度にオーブンを予定している深谷地区多目的交流広場の「屋内運動施設の名称」を募集します。たくさんの方が訪れたくなる、わくわくするような素敵なお名前を付けてください。



応募方法…同封の**応募用紙**に記入し、役場および交流センターに設置する**応募箱**に入れてください。
FAXまたは**メール**でも応募できます。応募用紙は村のホームページからダウンロードできます。
締切は、**10月18日(金)**です。

- FAX 0244-42-1601
 - メール kikaku@vill.iitate.fukushima.jp
- 問** 総務課企画係 ☎0244-42-1613

多目的交流広場イメージ



8月の村の動きと主なできごと

- 1日・ナタネ研修会(村役場)
- 中山間地域等直接支払推進協議会(村役場)
- 1・2日・東大むら塾 農業委員会と交流(比曽地区)
- 2日・にぎわいづくり庁内検討委員会(村役場)
- 2～4日・全国まちづくり交流会(交流センター「ふれ愛館」・宿泊体験館きこり他)
- ふくしま駅伝 飯館チーム合宿(いいたてスポーツ公園)
- 4日・「マイナビ就職フェスタ」に出展(東京都新宿区)
- 比曽地区作付再開計画作成説明会(比曽集会所)
- 4～10日・飯館中学校 上智大学との夏期交流(飯館中学校)
- 5日・プール一般開放(学校エリアプール)
- 6日・トレイルニングルーム説明会(いいたてスポーツ公園)
- 9日・「道路ふれあい月間」道路美化活動(県道原町川俣線)
- 10日・未来への翼 第3回事前研修及び結団式(交流センター「ふれ愛館」)
- 10～11日・「奈良と東北の子」ともたち東大寺奉納公演(参加(奈良県奈良市))
- 11日・いいたて夏祭り(いいたて村の道の駅までい館)
- 12日・2周年記念イベント「までい館誕生祭」(いいたて村の道の駅までい館)
- 12～20日・未来への翼「北欧研修」(スウェーデン・フィンランド)
- 18日・いいたてつ子夏まつり(学校エリア)
- 体力・運動能力測定会・トレイルニングルーム説明会(いいたてスポーツ公園)
- 伊丹沢地区農地中間管理事業等説明会(伊丹沢集会所)
- 21日・渡辺博道復興大臣 来村(学校エリア・長泥地区)
- 23日・「よい仕事おこしフェア実行委員会」との包括連携協定締結式(村役場)
- 飯館村戦没者追悼式・慰霊祭(交流センター「ふれ愛館」)
- 第8回農業委員会定例会(村役場)
- 25日・村民グラウンド・ゴルフ交流会(いいたてスポーツ公園)
- 第2回福祉チャリティ祭り(交流センター「ふれ愛館」)
- 飯館村野球連盟理事長杯(いいたて球場)
- 八木沢・芦原地区作付再開計画作成説明会(八木沢集会所)
- 関沢地区作付再開計画作成説明会(関沢集会所)
- 定例教育委員会(福島市・福島テルサ)
- 相双地域就農バスツアー(村内・南相馬市他)
- 31日・いいたてキャンプ(宿泊体験館きこり)

「オムソーリ」と「心のシェア」

こころの
ぽけっと

スウェーデンには、「オムソーリ」という言葉があるんだそう。どういう意味か確かめたものと今回中学生たちとスウェーデンに行ってきました。この言葉は、福祉や介護あるいは教育や医療の分野等でお互いに優しさや悲しさを分け合って、人間同士の触れ合いや共生によって、幸せを求めていこうという考え方を指す言葉なんだそう。なるほど、国民全体がそういう考え方でいるから、小さな国でありながらあらゆる評価の面で世界の上位にランクされているんだということも学んできました。

帰国後、「世界のことわざ100」なる本を見てましたらスウェーデンのことわざに「喜びは分け合うことによりって倍になり、悲しみは分け合うことによりって半分になる」というのが目にとまりました。改めて、「なるほどなるほど」と納得したところ。確かに、一人で喜ぶより大勢の方が喜びが大きくなります。一方で、人生には悲しみがつきものです。その時に、周りの人が分け合ってくれることによって、悲しみを耐え抜く力が出てくるということもありです。

わが村をふり返った時、今までとは全く違った環境の中で、地域づくりや村づくりを進めていかねばなりません。「自分さえよければ」「自分のところさえよければ」という考えだけでは、どうやら住みづらくなるばかりです。スウェーデンの「オムソーリ」を飯館村では「心のシェア(分け合う)」という考え方で進めていく中で、「世界の上位にならなくとも、「いいいてらしいよいところ」に向かっていきたいものです。

令和元年8月25日 飯館村長 菅野 典雄

いいたて村の
道の駅までい館

きてみて

道の駅までい館

飯館村深谷字深谷前12-1
☎ 0244-42-1080
FAX 0244-42-1085

開業2周年を迎えた「いいたて村の道の駅までい館」。ランチやドライブの休憩に、また土産物の購入に、ぜひお立ち寄りください。野菜や切り花・鉢花の直売もあります。

営業時間：午前10時～午後5時（11月～2月）
午前10時～午後6時（3月～10月）
※コンビニ 午前6時～午後8時
※公衆トイレ 24時間

定休日：毎週水曜日、年末年始（12/31～1/2）
※コンビニ・公衆トイレは年中無休

開業2周年の
記念切符を
発行しました

不動の人気
を誇る村産
の切り花

道の駅のあちこちに出没する「いいたてまで子」が密かな人気♡スタッフが生み出した隠れキャラが看板娘に成長中！



上田和昌さんの

ラオス通信。

vol.4

国旗と言葉と気候のこと

東京オリンピック・パラリンピック2020で村が「復興『ありがとう』ホストタウン」を務めるラオスってどんな国？上田さんのレポートで素朴な疑問に答えられます。きっとラオスが身近になりますよ！

上田さんは山梨県の出身。ラオス国立大学で活動する青年海外協力隊の隊員です。



青年海外協力隊の二本松訓練所で。右が上田さん。

ラオスの国旗は、1975年のラオス人民共和国成立時に制定されました。赤は独立闘争で流された血の色を、青は国の豊かさを象徴しているとされています。中央の白丸はメコン川に昇る月を表し、共産主義による国の統一を象徴しています。

主要言語は、ラオス語。「おはよう・こんにちは」は「こんばんは」は、すべて「サバイデー」と言います。「ありがとう」は「コープチャイ」、「どういたしまして」は「大丈夫・（なんとかなるよ）」は「ポーペンヤン」という言葉を使います。この言葉さえ知っておけば、親切で心優しい人の多いラオスでは、生きていきます。

気候は、雨季と乾季の2季です。ラオス人と気候の話をしていて、日本は5つの季節があるんでしょと言われて、はじめは日本のことをあまり知らないんじゃないかと思っていましたが、よく考えると春と夏の間は梅雨というラオスの人にとって見れば雨季のような時期があることに気づかされました。ラオスで生活していると、今まで日本で生活していた当たり前だと思っていたことを、改めて考えさせられる機会に多く出会います。

また、日本では、「天気がいいね」というと、曇一つない晴れた天気を想像しますが、南国の国ラオスでは、一年中暑いという背景があるためか、曇っていて涼しく過ごしやすいい日を「天気がいい」という言葉で表します。

今回は「ラオス各地の観光名所」を紹介します！

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
佐藤 健翔くん	脩平・結衣	前田・八和木
高橋 絵優ちゃん	匠・里絵	上飯樋



すくすくと元気に育ってね

おくやみ

氏名	年齢	行政区
竹中 義家	79	佐須
齋藤 多喜夫	84	飯樋町
佐々木 則次	83	草野
熊谷 康子	63	飯樋町
伏見 テルノ	90	関沢

ご冥福をお祈り申し上げます



(7月21日から8月20日までに届け出のあったものを掲載) ※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

ひとのうごき

7月1日～31日までの人口動態	
人口	今月(前月比)
男	2775人 (-2)
女	2788人 (-2)
計	5563人 (-4)
世帯数	1818戸 (-2)
転入	11人
転出	8人
出生	3人
死亡	10人
(住民基本台帳人口)	

HOPES

ホープス セカンド
2nd

新しい挑戦を始めています

鈴木 秀範さん（上飯樋）



「おいしい野菜をつくること」を生きがいとして、農業をやつてきた鈴木さん。避難の間も「飯館でもう一度、おいしい野菜をつくりたい」と心に考えていました。「今までのように、有機肥料を活用してつくりたい」。

鈴木さんが挑戦を始めたのは、有機質肥料の養液を使ったミニトマトの水耕栽培でした。「インターネット」で、

昨年度から上飯樋行政区長。震災前は水稲や野菜を生産し、農業委員も長く務めました。現在は村が国の事業により整備したハウスで新技術を用いたミニトマトの栽培に挑戦しています。



甘さにこだわったおいしいミニトマトがなっています。左奥が養液用のタンクです。今後は、技術を高めながら、収量を増やしていこうと考えています。

三重県の農研機構が取り組んでいるこの栽培技術を知りました。水耕栽培でも有機肥料が使える」。

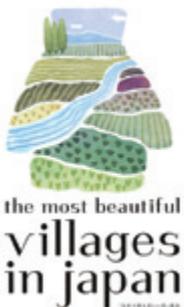
現地を訪れて栽培方法を学び、研究会の一員となった鈴木さん。プランターで試験を行っていました。昨年ハウスが完成し、今年から、本格的な栽培と出荷を始めました。「まだまだ試験的で、勉強を重ねています。養液での栽培をして、改めて『土』の力を感じたり、植物の成長について学んだりしています」。

今後、経験を集めて、「要所をしつかり覚えて管理したい」と思います」と鈴木さん。さらにはこの技術でリーフレタスの栽培にも挑戦しようと考えています。「若い人を雇って技術を学んでもらえたらとも考えています。戻った人とはもちろん、村の外でがんばっている人とのつながりも大切に、これからの地域づくりをしていきたいですね」。

〈編集後記〉

● 猛暑、酷暑、暑い夏でした。外で作業をしている皆さんを見る度、「暑中、すごいな」と尊敬する日々でした。そんなある日、役場の前庭で二羽のチョウチョが木陰でひとやすみ。その木は、前日に自分が植樹したものでした。少し疲れた時にホッと休むことができる場所、そんな人になれたらと。(木幡)

● 山津見神社でお会いたした詩人の和合亮一さんが(詳しくは5ページを)「この地で生きていく人間として、草や木や風や空ともう一度親しい気持ちを持つて話したい」「ここで本気でやっていこうという大人達がいる。子ども達に手渡しで伝えたい」と語っていました。言葉の力に圧倒されながら、広報紙もそんな思いでつくっていただけたらと、胸が熱くなったのでした。(星)



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。